

# 令和5年度 第2回 宗谷管内学力保障会議

目的 全国学力・学習状況調査及び3つの柱の取組評価から管内の学力保障に係る取組の検証を行う。

開催日 令和5年8月22日(火) 10:00~12:00 方法 Web会議システム (Zoom)

参加者 ・市町村教育委員会教育長 ・宗谷校長会 ・稚内市校長会 ・宗谷管内公立学校教頭会 ・稚内市公立学校教頭会  
・北海道高等学校長協会道北支部 EBE 協議会指定地域校長 ・宗谷教育局

## 【挨拶】

宗谷教育局長 山崎 義一

- ・本協議は、5月の第1回会議で共有された「学力保障プラン」に基づく取組の進捗状況について確認し、今後の改善策について協議することが目的である。
- ・今年度の全国学力・学習状況調査の結果からも市町村教育委員会や学校において、子どもたちの実態を踏まえた取組を積み重ねてきた成果が表れている。引き続き、各地域の子どもたちの実態を踏まえたきめ細かな指導と国の分析資料等を活用しながら、ICT機器を活用した授業改善をより一層推進していただきたい。



## 【報告・提案】

宗谷教育局教育支援課長 松浦 隆史

- 【報告】 ・「学力保障プラン『3つの柱』」の中間評価について  
・全国学力・学習状況調査の結果について
- 【提案】 ・「3つの柱」に基づく今後の取組について



## 協議 1

「学力保障プラン『3つの柱』」に基づく取組の中間評価の結果を踏まえた成果と課題について  
・調査結果の受け止めと市町村・学校としての対応策に係る意見交換

- ・短期的な検証改善サイクルを実行することによって、児童生徒の学力向上に成果を上げている学校がある。
- ・授業の理解度は、教員と児童生徒の人間関係も影響していると考えられる。
- ・小中合同研修会、中学校教諭による小学校への乗り入れ授業の効果が学力向上の成果につながっている学校がある。
- ・家庭学習の習慣化が課題の学校が多くある。児童生徒が主体的に学習に向かうためには、将来への希望をもっていることや自己肯定感の高さも影響があると考える。
- ・「授業改革に向けた『5つのポイント』」で示されている振り返りが授業の中で十分に行われていない状況が見られる。1単位時間の授業の中で児童生徒自身がまとめを行い、学んだことについて振り返る授業改善が必要である。
- ・学力調査において、実力を発揮できなかった児童生徒へのサポートが必要である。伸びしろ層の児童生徒を0人にするために、学ぶ楽しさを実感できる授業改善や計画的な学力の着実な積み上げが必要である。
- ・家庭学習習慣の定着へ向け、ICT 端末の活用や家庭と連携した取組の推進を図ることが大切である。

## 協議 2

今後の取組について

・総括的指標達成へ向け、全ての学校で取組を進めることについての意見交換

- ・授業における ICT の効果的な活用については、道の指定事業である「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」等の成果を広く普及するなどし、目指す授業の具体を共有することが大切である。
- ・授業は分かる、教科は好きだが、できるようになるまで児童生徒を育成できていない状況がある。指導計画の改善も含めた授業改革の方策について指導主事による要請訪問の活用を図ることも考えられる。
- ・市町村ごとに放課後学習会や公設塾、長期休業中の学習サポート等の工夫を行っているが、より多くの児童生徒が参加できるように教育委員会がさらに学校と連携を図ったり、CS を含めた地域全体でサポートしたりする必要がある。
- ・1人1台端末を持ち帰り、家庭学習でどのように効果的に活用するかが課題である。家庭学習のやり方に関する事例紹介やデジタル教材の充実等工夫を図る必要がある。
- ・家庭でのメディアに触れる時間が多い現状があるため、効果的な資料を家庭に提示するなど、児童生徒、家庭の意識改革が必要である。

## 【まとめ~全ての教育活動を意図的・計画的に!!~】

義務教育指導監 千代 隆志

- ・子どもの姿と合わせて分析した結果、どんな対策が必要なのか明確にすることが大切である。
- ・国語、算数・数学、英語だけの問題ではない。全ての教育活動の中で、意図的・計画的に児童生徒の資質・能力を育成することが重要である。
- ・学校の取組について、ねらいと具体策、成果と課題をセットで家庭に知らせることが大切である。

